



声なき声に耳を傾けて

ボートレース尼崎のキャラクターが車体プリントされたスクールバスが市内を巡るようになって、約2か月。競艇場に行こうとする人が間違えて乗車し、あまようまで登校してきた、という話はまだありません。乗車している介助員さんが水際で防いでくれているのかも知れません。調子に乗って、「来年度の新2号車は馬の絵かなあ」「いや自転車でしょ」などという声があるとか、ないとか…。

朝、学校にタクシーやバスが到着し、玄関の所で出迎えていると、子ども達は様々な方法であいさつをしてくれます。口を動かす人、手首を曲げる人、お辞儀をする人、微笑む人…。中には、私がそこに存在していないかのように、我が道をずんずん進んでくる人もいます。ある日、その人が私の前でくしゃみをしました。鼻水が出たので私がティッシュを出して付き添いの先生に渡し、その先生が鼻水を拭き取りました。いつもなら、私に目もくれずずんずん進んでいくその子が、その日はそこで立ち止まりました。付き添いの先生は「校長先生にお礼が言いたいんやね」と言いました。言葉や表情などで伝える代わりにその子は自分が出来る動きで自分の気持ちを伝えようとしたのでしょう。それは、「感謝の気持ち」ではなかったかも知れません。何を伝えようとしたのか、その子の思いは想像するしかないのでしょうか。

今から13年前、新聞に「重い障害の少年が伝えたかったこと」という記事が載っていました。その子は1歳の時に事故で、筋肉1つ自由に動かせない寝たきり生活になりました。特別支援学校の中学部1年生の時、大学教授が改良した文字入力ソフトと出あいました。50音を読み上げる音声を聞きながら選びたい文字のところでスイッチを動かす、そのわずかな反応を拾って教授が入力するというものです。1回目は何の動きもありませんでした。2か月後、かすかな動きがありました。食べたいアイスを探ねると「ば」。「ばにら」の意味でした。それから4か月後、スイッチが小さく動き、1時間余りをかけて表現したそうです。どんな言葉だと思いますか？ 1歳の時の事故以来、おそらく生まれて初めて表現した自分の言葉です。「せかいからせんそうがずっととだえて てきみかたきめずに くらしていけたらいいのに」。その後もこの少年は言葉を紡ぎます。「決して何もしていなかったわけではなく、ただじっと言葉だけを使って生きてきた」そうです。「ドラマよりもすさまじい体験をしてきた。だから言葉が研ぎ澄まされてくるのは当たり前のことだ」と言っています。教授の話も載っていました。「『はい』『いいえ』も言えないため、赤ちゃん程度の発達段階と見なされる人もいる。だが、多くは言葉を持っている。意思を持ちながら認められないのは、人間としての存在を否定されること。その恐ろしさを想像してほしい」。

娘が小さい時、おもちゃ王国に遊びに行きました。園内を何気なく歩いていると、ふと私の方を見て「たのしい」と言いました。たったそれだけのことが嬉しくて、今も鮮明に覚えています。

6月は小学部は修学旅行でおもちゃ王国に行きます。「楽しい」と思ってもらえるように願っています。中学部は自然体験学習でしあわせの村に行きます。文字通り幸せな気分になって下さい。

ドイツの作家、ケストナーに「動物会議」という作品があります。動物たちが集まり「子どもたちのために何かしなくちゃ」と会議をします。そして人間に対して二度と戦争が起きないことを要求する物語です。動物たちの本当の気持ちも聞きたいものです。



(校長 河合 康一)

☆宿泊行事について

小学部5・6年生が行く「東条湖おもちゃ王国」とは？



- 様々なアトラクションやおもちゃの部屋があり、その敷地は甲子園球場2個分の広さ、つまり、甲子園球場で野球観戦するよりも、2倍楽しめると考えて差支えはないでしょう。
- 今年の7月で開演25周年を迎えます。おもちゃ王国の前身は、「東条湖ランド」という遊園地でしたが、テレビCMの「♪と〜じょ〜こランド」というメロディーを覚えている方もおられることでしょう。
- 乗り物体験をしたり、おもちゃ王国の目の前にあるホテルに泊まったりして、楽しい思い出を作ってきて下さいね。



中学部2・3年生が行く「神戸しあわせの村」とは？

- 神戸市制100周年を記念して開村した、高齢者や障害者の自立と社会参加等を支援する総合福祉ゾーンで、敷地は205ヘクタール、甲子園球場50個分以上！ ただし、甲子園の50倍楽しめるのかは検証中。
- あふれる緑に包まれ、赤い屋根と白い壁の建物が南ヨーロッパを思わせます。宿泊施設もたくさんあり、あまようが泊まるのは、しあわせの村のシンボルである本館・宿泊館です。
- 体験活動を通して豊かな自然に触れることを目的としていますので、雨男雨女は連れていくことはできません。

☆コミュニティスクールについて

学校運営協議会が設置されます

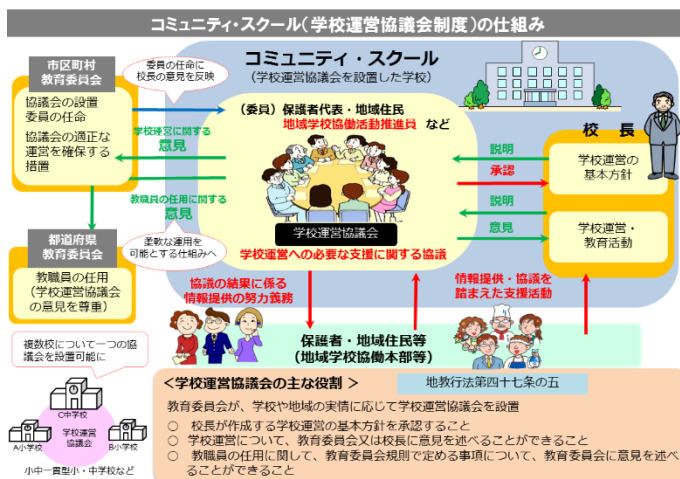


コミュニティスクールとは、学校運営協議会を設置した学校のことであり、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる仕組みです。あまようは、6月16日(月)に第1回 学校運営協議会を開催し、教育長から設置証が交付されます。また、運営協議会委員の方々にも教育長から辞令が交付されます。

運営協議会委員は以下の通りです。

- (子どものための権利擁護委員会)
- (小学校運営委員)
- (幼稚園専門家派遣員)
- (本校校長)
- (本校教頭)
- (本校前PTA会長)

これまであまようは、地域住民の方との交流というはありませんでした。近隣の小中学校や梅プラザとの交流をきっかけに、あまようのことを地域の人に知ってもらえるような活動ができればなあと考えています。



☆お知らせ

* 寄付について

今年度も大島商事株式会社様からご寄付をいただきました。ありがとうございます。

* スクールバスのGPS機能について

スマホ等からバスの現在地が確認できるシステムは9月から開始します。詳細は後日お知らせします。

